

## 中学生の「税についての作文」

大木町長賞

### 町を盛り上げる税

大木町立大木中学校

三年 廣 松 夏 海

「ふるさと納税」この言葉を聞いてみなさんはどのような印象を持ちますか。テレビなどで聞いたことがある人も多いと思います。ふるさと納税とは、応援したい全国の自治体に寄付ができる仕組みのことです。

では、寄付されたお金はどのように使われているのでしょうか。私の住む大木町では、大きく六つの使い道に分かれていることが分かりました。その中で、私が特に気になった項目があります。それは、「子どもが元気に輝くまちづくり」という子どもに焦点を当てた項目です。この項目では、学習用タブレットの導入や、部活動助成金など私達の身近なことにも使われています。つまり、知らず知らずのうちに地域の方々に支えられ、伸び伸びと成長できるようにサポートしてもらっていることが分かります。

ところで、大木町には一年間に総額どれくらいの金額が寄付されているか知っていますか。昨年度は五億九二八三万五千円もの金額がふるさと納税として寄付されています。これは、十年前の二〇一〇年度の約四〇八八倍、最も古いデータである十二年前の二〇〇八年度の約一六三三倍に当たる金額

であることが分かりました。このことから、ふるさと納税は年々知名度が上がり、多くの人が町づくりに貢献していることが分かりました。そんな中、私が最も注目した金額があります。それは、二〇一八年度の十四億四一三〇万円です。これは前年二〇一七年度の約十二倍です。私はなぜこの年だけ金額が大幅に伸びているかについてさらに調べることにしました。すると意外な理由があったのです。二〇一八年九月、北海道胆振東部で地震が発生しました。この地震で被災した厚真町の力になろうとふるさと納税の事務代行を大木町が申し出て、実際に行ったことが転機となりました。その後、厚真町のサイトに大木町の活動が大きく紹介され、寄付額一千万円をはるかに超える金額が集まったそうです。

私は今まで、ふるさと納税は自分にとつて聞いたことがあるといっただけの存在でした。しかし、この作文を書くことにより、二つのことに気づかされました。

一つ目は、ふるさと納税は消費税などとは違い、義務ではなく自主的に納める税であるにも関わらず、多くの寄付額が集まっているということです。このおかげで、町が活性化し成り立っているということも分かりました。

二つ目は、ふるさと納税により、たくさんつながりが生まれるということです。地元だけでなく、遠く離れた町同士でも互いに支え合い、つながり合うことができるということを知りました。

「町を盛り上げる税」これを知って、自分達で町を築き上げ、被災した町に手を差し伸べる大木町がとても誇らしくなりました。また、少しずつでも町に貢献できることを見つけ、実行していきたいと思いました。